

日本鉱物科学会 平成25年度第3回 定例評議員会議事録

日時：平成26年9月17日（水）18:00-20:30

会場：熊本大学理学部 2号館 C122 大講義室

評議員会出席者：

会長：村上 隆，副会長：小山内康人

評議員：安東淳一，池田 剛，大和田正明，河上哲生，
川本竜彦，宮脇律郎，柳澤教雄，吉朝 朗，
赤坂正秀，榎並正樹，片山郁夫，土山 明，
奥山康子，大藤弘明，角替敏昭，佐藤 努，
伴 雅雄，平島崇男

委任状：平賀岳彦，木村純一，廣井美邦，宮嶋 敏，

坂本尚義，鍵 裕之，宮島 宏，森下知晃

欠席者：土屋範芳，本間 寿，小澤一仁

報告者出席：庶務幹事：永井隆哉，会員幹事：佐藤 努，会計幹事：
中村美千彦，行事幹事：黒澤正紀，和文誌編集幹事：赤坂正秀，
英文誌編集幹事：平島崇男，渉外幹事：井上 徹，広報幹事：
伴雅雄，Elements幹事：井上 徹，特務幹事(会則・内規検討担当)：
小暮敏博，特務幹事(会員増対策担当)：片山郁夫，特務幹事
(法人化対策担当)：土山 明，三鉱連絡委員：永井隆哉，大和田
正明，地球惑星科学連合2014年度学会選出プログラム委員：
三宅 亮(正)・角替敏昭(副)，地惑連合連絡担当：黒澤正紀，橘
省吾(連合登録連絡委員)，行事委員会委員長：黒澤正紀幹事，GKK
編集委員会委員長：赤坂正秀幹事，JMPS編集委員会委員長：
平島崇男幹事，渉外委員会委員長：井上 徹幹事，広報委員会委
員長：伴 雅雄幹事，Elements委員会委員長：井上 徹幹事，将来
企画委員会委員長：小山内副会長，教育普及委員会委員長：
奥山康子，新鉱物・命名・分類委員会委員長：宮脇律郎，博物
館委員会委員長：坂野靖行，2015年年会LOC委員長：小暮敏博

会議に先立ち，河上哲生評議員が書記に選出された。

I. 報告事項

1. 会員報告（佐藤会員幹事）

平成25年度第2回評議員会以降の会員動静について，シニア会
員1名のご逝去，シニア会員5名一般正会員10名，学生正会員
10名の退会，一般正会員5名，学生正会員27名の入会があった
ことが報告された。また，平成26年度からの永年会員3名の報
告があった。転居先不明者5名のうち，一般正会員1名につ
いては調査することとした。一般正会員3名，学生正会員1名が
除名された。会員数の遷移について報告があった。

2. 広報報告（伴広報幹事）

第2回評議員会以降，学会事務連絡，公募案内，関連学会案内
など会員へのML送信を26回実施した（2013年度は44回）。連
合大会の鉱物科学会ブース対応として，1. 学会発行の科学雑
誌，年会，表彰，入会案内，2. 学会会員の執筆した書籍の展
示・紹介，3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介ポ
スター，4. 「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター
の紹介，5. スタンプラリーに参加を行った。また，2014連合
大会トップページに学会のロゴマークを掲載した。さらに，
学会HPの改訂を行ったことについて報告があった。

3. 渉外報告(井上渉外幹事)

2012日本地球惑星科学連合大会（2012JpGU）から始めた鉱物
科学会ブースにおける「本学会会員執筆書籍の展示」は，
2014JpGU，及び今回の日本鉱物科学会2014年年会へと引き続
き行われている旨，報告があった。前回の2014JpGUまでに献

本された本は25冊であり，その後1冊著者返却，今回新たに献
本された本は2冊で，合計26冊となった。また，講談社サイエ
ンティフィック「鉱物科学」教科書の執筆の状況報告について
報告があった。

4. 和文誌（GKK）編集報告(赤坂GKK編集幹事)

岩石鉱物科学編集状況と編集委員会内容が以下のように報告
された。9月10日現在，平成25年度中に発行された岩石鉱物科
学42巻5号(9月)～42巻4号(7月)の掲載件数と頁数は次の通り。
原著論文4件 54p，総説4件56p，資料・解説9件62p，新刊紹介5
件 3p，ニュース(他学会案内，教官公募等)1.5p，投稿規定 6p，
学会記事(評議員会・総会議事録，連合ニュース等) 26.5p，2014
年会案内・プログラム 28p，総目次 2p，広告12件 6p，白頁 3p，
合計248頁。

(1) 発行，編集状況：43巻4号(7月号)8月28日冊子発送，電子ジ
ャーナル8月30日公開済み。43巻5号(9月号)受理論文2編(う
ち1編早期公開中，1編印刷中)。現在査読中論文：5編。その内
受理予定0編。

(2) 平成26年9月17日(水)13:00-13: 編集委員会を開催した。

(3) 編集委員会体制：編集委員長，委員の交代について。新編集
委員長：木村 真，委員交代：赤坂前委員長は委員継続。退
会による辞任：石田秀輝。定年による辞任：田中久雄。新委
員：栗林貴弘，大藤弘明，栗谷 豪，阿部なつ江。

5. 英文誌（JMPS）編集報告（平島JMPS編集幹事）

平成26年9月17日(水)12:00-13:00にJMPS編集委員会を開催し
た内容について報告された。

1. JMPS状況報告：9月13日現在，平成25年度中に発行された
JMPS108巻5号(10月)～109巻4号(8月)の掲載件数と頁数は6号
分で次の通り。Article 20件 227p，Letter 17件93p，Editorial 1p，
投稿規定5p，Index 4p，Contents 4p，白頁2p，合計336頁。(1) 発
行状況：109巻4号(8月)電子ジャーナル8月25日公開，冊子8月
28日発送済み。109巻5号(10月)原著論文3編（1編印刷中，2
編印刷確認中）。(2) 編集状況：2014年9月13日現在：査読中論
文13編，受理18編，不受理14編，返却中5編。2013年9月8日か
ら2014年9月13日まで（カッコ内数字は昨年，一昨年の数
字）：総投稿数50(31, 37) 編，通常原稿34(19, 22)編，年会Letter
16(12, 15)編 [うち海外投稿数14(9, 5) 編]。(3) 2013年JMPS
インパクトファクター0.656（昨年0.589）

2. 電子ジャーナルアクセス状況報告およびPEPS編集部による
インパクトファクターを上昇させるための試算紹介があった。
3. 2014年年会講演を対象にLetter を募集中である（投稿申込締
切：2014年9月30日）。
4. 「JMPS学生論文賞」規定内容を最終訂正，確認し，評議員会
に提出することとなった。
5. ページチャージ割引クーポンの具体的な実施に向けて更に
検討することとなった。
6. 外国人留学生学生正会員の帰国後のサポートについて評議員
会で検討することとなった。

6. 庶務報告（永井庶務幹事）

平成25年度第2回評議員会以降の対応について以下のように
報告された。メール発信は，評議員会関連6件，会員への連絡
6件を行った。また，2015年連合大会プログラム委員選出など
5件の連合関係の事案に対応した。共催3件，協賛7件について
報告があった。2014年7月2日J-Stage説明会に赤坂GKK編集委
員長が出席した。

7. 行事・年会報告（黒澤行事幹事）

現在2014年9月17日(水)から18日(金)まで熊本大学黒髪北キャ
ンパス全学教育棟C棟にて日本鉱物科学会2014年年会・総会が
開催されていること，2015年連合大会が2015年5月24日(日)

から 5月28日(木)の期間、幕張メッセで開催されること、日本鉱物科学会2015年年会・総会が、2015年9月26日(土)～28日(月)に東京大学で開催される予定であることが報告された。
追記：(10月6日に小暮2015年年会LOC委員長から大学の都合で1日早まる可能性があると連絡があり現在日程調整中)

8. Elements報告 (井上Elements幹事)

Elements Society Newsについて、2014年度はNo.3～No.4までが対応済みで、No.5についても現在編集集中であると報告があった。

9. 次期会長・副会長・評議員選挙報告

(外田選挙管理委員：代理永井庶務幹事)

次期会長・副会長・評議員選挙結果について、以下のような報告があった。

会長：小山内康人(任期2年：平成26年9月18日総会終了後～平成28年総会終了まで)
副会長：土山 明(任期2年：平成26年9月18日総会終了後～平成28年総会終了まで)

<次点>平島崇男

評議員：任期3年：(平成26年9月18日総会終了後～平成29年総会終了まで)
阿部なつ江、井上 徹、上原誠一郎、黒澤正紀、小暮敏博、下林典正、高澤栄一、土谷信高、長瀬敏郎、中村美千彦
(以上五十音順)

<次点>永井隆哉<次々点>杉山和正<次々次点>石川正弘
今回、石渡明評議員が辞任し、土山 明評議員が副会長当選で評議員と重複したため、それぞれ任期1年を残し2名の欠員が生じた。選挙内規13項、14項に従い、以下のように次点車と次々点者評議員として補充され、次々次点者が次点者となる。

石渡明評議員の補欠当選者：永井隆哉(任期1年：平成26年9月18日総会終了後～平成27年総会終了まで)
土山明評議員の副会長当選に対する補欠当選者：杉山和正(任期1年：平成26年9月18日総会終了後～平成27年総会終了まで)

<次点者>石川正弘

総投票数：243票(WEB投票219票、郵送投票24)、無効投票数：21票(WEBでの複数回投票4、副会長投票の無効投票(1名を超える投票)+評議員選挙の無効投票1、副会長投票の無効投票(1名を超える投票)10、評議員投票の無効投票(10名を超える投票)6)

正会員立会い：海田博司

10. 将来企画委員会報告(小山内委員長)

9月17日(水)17:00-17:30に開催された第13回将来企画委員会で、法人化について議論されたことが報告された。(詳細は11番参照)

11. 特務幹事(法人化対策担当)報告(土山特務幹事)

法人化対策WG[委員長：土山特務幹事(法人化対策担当)、委員：村上会長、小山内副会長、中村会計幹事、永井庶務幹事、オブザーバー：学会事務宮地]は、平成26年4月30日開催第2回評議員会の諮問を受け、添付資料をもとに法人化についてメールによる議論を行い、以下の結論を得たこと、またこれについて、9月17日開催の第13回将来企画委員会(委員長：小山内副会長)においても法人化への方向性について議論審議されたことが説明、報告された。(1)コンプライアンス(責任の明確化、財産の保有、透明性の高い会計処理)の高い団体として運営していくため、日本鉱物科学会は法人化(一般社団法人(非営利型))を目指す。(2)法人化への移行については、

費用や事務手続きも含めて大きな問題はない。(3)法人の具体的な組織や制度については、組織、会員制度、会計制度など様々な検討課題が存在する。(4)「自由で、会員が運営に参加でき、運営が楽」という基本方針を目指し、新たな「法人化準備WG」を設置してより今後詳細な検討を行う。(5)多くの会員の意見を聞き、最終判断を行う。(6)法人化の時期としては当初予定の2015年9月には、必ずしもこだわらない。

12. 特務幹事(会員増対策担当)報告(片山特務幹事)

昨年から懸案の1)海外渡航支援1件、2)国内学会参加費補助2件について検討してきたが、2件について同時に行う混乱を回避するため、研究発表優秀賞受賞者に対する「1)海外渡航支援」について検討し、研究発表優秀賞ガイドラインとして基準を作成したと以下のように説明、報告された。主な変更点は、以下の4点である。(1)支援制度の内容は、内規ではなくガイドラインに明記。(2)学振研究員(DC)も受給できるよう「旅費規程に基づく実費相当を支給」と明記。(3)研究発表賞の対象には口頭発表も含める。(4)研究発表賞の選考委員会を設ける。これに伴うガイドラインの改定案および新設の研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン案について報告があった。なお、将来本案が軌道に乗るか、あるいは成果が見られなかった場合は「国内旅費支援」を準備する。

13. 地惑連合報告(大谷連合連絡委員：代理永井庶務幹事)

地惑連合の動きについて以下のような報告があった。(1)2014年横浜大会の開催状況、(2)褒賞制度：連合のフェロー制度の創設とフェローの選出、(3)連合の中堅研究者(45歳以下)の褒賞：西田学術振興賞の創設、(4)2015年大会の準備状況について、(5)フェロー制度規則変更、(6)グローバル戦略委員会の設置、(7)2015年に25周年特別シンポジウムを開催、2016年にAGUとの共通セッションを企画、2017年にJPGU-AGUのJoint meetingを行う。(8)AGU Fall Meetingへのブース出展。

14. 特務幹事(対外JpGU)雑誌担当

(大谷連合連絡委員：代理永井庶務幹事)

地惑連合のジャーナルProgress in Earth and Planetary Scienceの現状と出版方針について報告があった。

15. 学術会議報告(大谷学術会議連携委員：代理永井庶務幹事)

(1)学術会議地球惑星委員会、(2)IMA分科会、(3)IMA総会、について報告があった。

16. 三鉱連絡会報告(大和田委員)

WEBで閲覧する電子版名簿について、今後公表準備を進めることとなった旨、報告があった。

17. 教育普及委員会報告(奥山委員長)

2014年4月29日のJpGU教育検討委員会の議事とその後の経過について報告があった。特にH24年度より実施の学習指導要領のもと、高等学校地学履修者が旧課程の約7%からH26年度は約25%に著しく増加した旨、報告があった。

18. 博物館委員会報告(坂野委員長)

国際会議M&M2016年日本招致について、2014年4月及び6月にIMA-CMに招致提案書を送付し、引き続き招致する意思のあることを示し続けた。IMA2014期間中に開催されるIMA-CM business meetingにて再度M&M2016日本招致提案を行う予定である旨、報告があった。
追記：10月23日付けで投票の結果、M&M2016日本招致ができなかった旨、報告があった。

1 9. その他の報告

2015年年会（東京大学）開催準備状況の報告が小暮 LOC委員長からあった。

II. 承認事項

1. 会員承認（佐藤会員幹事）

(1) 以下の正会員5名、学生正会員27名の入会申込書が回覧され、入会が承認された。また永年会員への移行3名（武田 弘、富田克敏、秀平重久）が承認された。議決により4名が除名となり転居先不明者1名は調査することとなった。なお、シニア会員退会者4名と転居先不明者1名については再確認することとなった。

入会の承認 合計32名（入会申込書別添え）

一般正会員5名

| 氏名 | 勤務先名 |
|------|-------------|
| 有馬 寛 | 東北大学金属材料研究所 |
| 最首花恵 | 産業技術総合研究所 |
| 武藤仁美 | 日本電子株式会社 |
| 藤原由輝 | ジーワン株式会社 |
| 西田勝一 | ジーワン株式会社 |

学生正会員27名

| 氏名 | 在学先名 | 学年(申込時) | 指導教員 |
|-------|------------------|---------|--------------------|
| 長谷川輝 | 東京大学大学院理学系研究科 | 修1 | 三河内 岳 |
| 曾田勝仁 | 熊本大学大学院自然科学系研究科 | 修1 | 尾上哲治 (非会員) |
| 木村 直 | 四谷学院横浜校（個別指導生） | | 佐藤 努 |
| 加藤涼介 | 九州大学大学院地球社会統合科学府 | 博1 | 小山内康人 |
| 清水隆一 | 立正大学大学院地球環境科学研究科 | 博1 | 川野良信 |
| 遠藤大介 | 筑波大学大学院生命環境科学研究科 | 博3 | 荒川洋二 |
| 佐々木惇 | 岩手大学大学院教育学研究科 | 修1 | 土谷信高 |
| 阿部 都 | 新潟大学大学院自然科学研究科 | 修1 | M. Satish-Kumar |
| 天野早織 | 京都大学大学院理学研究科 | 修2 | 河上哲生 |
| 村田雅美 | 金沢大学大学院自然科学研究科 | 修2 | 森下知晃 |
| 宮本華蓮 | 愛媛大学大学院理工学研究科 | 修1 | 齊藤 哲 |
| 菊池亮佑 | 東京大学大学院理学系研究科 | 修1 | 小暮敏博 |
| 吉村真裕 | 東京大学大学院理学系研究科 | 修1 | 小暮敏博 |
| 丸山玄太 | 東京大学大学院理学系研究科 | 修2 | 平賀岳彦 |
| 石川 慧 | 東北大学大学院環境科学研究科 | 修2 | 土屋範芳 |
| 岸良直人 | 島根大学大学院総合理工学研究科 | 修2 | 高須 晃 |
| 安藤珠美 | 岡山理科大学大学院理学研究科 | 修2 | 小林祥一 |
| 伊神洋平 | 京都大学大学院理学研究科 | 博1 | 三宅 亮 |
| 小松 翔 | 秋田大学大学院工学資源学研究科 | 修2 | 大場 司 |
| 業田顕行 | 秋田大学大学院工学資源学研究科 | 博1 | 山元正継 |
| 今井 建 | 東北大学大学院工学研究科 | 修2 | 杉山和正 |
| 大郷周平 | 岡山理科大学大学院総合情報研究科 | 修1 | 西戸裕嗣 |
| 草野展弘 | 岡山理科大学大学院 理学研究科 | 博1 | 西戸裕嗣 |
| 丸山浩司 | 東京大学大学院理学系研究科 | 博3 | 鍵 裕之 |
| 安本篤史 | 京都大学大学院理学研究科 | 修2 | 平島崇男 |
| 宮野優美子 | 熊本大学理学部理学科 | 学部4 | 吉朝 朗 |
| 鳥羽瀬翼 | 熊本大学大学院自然科学研究科 | 修2 | 磯部博志 |

上記承認後の平成26年9月17日現在での会員数は951名(一般正会員671名、シニア会員148名、学生正会員85名、永年会員41名、名誉会員6名)となり、賛助会員、購読会員を含む団体登録は169件、総数1,120件である。以上から、平成25年度中増数内容は、入会一般5名+入会学生30名となり会員増合計35名。一方、平成25年度中減数内容は、物故3名+退会33名+不明8名+

除名8名となり会員減合計52名。以上から、平成25年度会員は昨年度より17名減少した。

2. 平成25年度会計決算報告(中村会計幹事)

別表の通り平成25年度一般会計と特別会計の決算について、プライマリーバランスでは概ね良好であるが、学会会費納付率が低下傾向であることへの対応が必要との報告があった。

- (1)日本鉱物科学会平成25年度一般会計決算報告 (後頁表1)
- (2)日本鉱物科学会平成25年度特別会計決算報告 (後頁表2)

3. 平成25年度会計監査報告・承認(加々島会計監査委員)

加々島会計監査委員より、平成25年度学会会計監査が平成25年9月11日に加々島・後藤両会計監査委員により行われ、帳簿類、会計内容とも健全に処理されていることが報告された。これを受け質疑の後、平成25年度一般会計決算報告と特別会計決算報告は承認された。

4. 総会次第 案(永井庶務幹事)

平成25年度総会次第案が提示され、質疑の後、承認された。

総会次第

- 一、 開会
- 一、 議長選出：(司会：会長挨拶)、定足数の確認
- 一、 物故会員への黙祷
- 一、 報告及び承認事項
 - 1. 平成25年度事業報告(会員、広報、渉外、編集、行事、庶務、Elementsなど)
 - 2. 平成25年度会計決算報告
 - 3. 会計監査報告と承認
 - 4. 次期会長・副会長・評議員選挙結果報告
 - 5. その他
- 一、 審議事項
 - 1. 平成26年度事業計画
 - 2. 平成26年度予算について
 - 3. 法人化について
 - 4. その他
- 一、 日本鉱物科学会賞授与
- 一、 渡邊萬次郎賞授与
- 一、 日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、 日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、 櫻井賞授与
- 一、 日本鉱物科学会ポスター発表最優秀賞授与
- 一、 日本鉱物科学会ポスター発表優秀賞授与

5. 「JMPS学生論文賞」規定案(平島JMPS編集委員長)

以下の規定案の文面をJMPS編集委員会で整えた後評議員会でメール審議を行うことが承認された。

- ・本会に日本鉱物科学会JMPS学生論文賞(以下、本賞)を設ける。学生正会員である筆頭著者が在学中または卒業・修了後、もしくは学籍を外れてから6ヶ月以内にJMPS誌に投稿した論文(article, letter)を対象とし、鉱物科学の発展に寄与した論文に対して贈呈する。過去あるいは同年に研究奨励賞・論文賞を受けた会員も受賞できることとする。同一人物に対する本賞の授与は回数を制限しない。
- ・受賞年の年初から遡って2ヶ年以内にJMPSに印刷公表された論文とする。
- ・選考委員会をおき、委員はJMPS編集委員で本学会員とする。委員長はJMPS編集委員長。委員が共著者になった場合、選考委員を辞退する。

- ・選考は受賞対象論文のリストに基づき、委員会が授賞に値すると認めた原則2編以内の論文を選び、選考理由を添えて第2回定例評議会の日までに会長に報告する。
- ・会長は評議会に諮り、その承認を得て本賞受賞論文を決定する。
- ・総会において、賞状を贈呈する。また、受賞論文の筆頭著者1名は受賞年度の会費を無料とする。
- ・英文名：Japan Association of Mineralogical Sciences JMPS Paper Award for Student Scientists

6. 「年会研究優秀発表賞及び海外渡航支援制度に関する規定（ガイドライン）」について（片山幹事）

以下のようなガイドラインの改正案と新設案が提示され、質疑の後、承認された。

改正：11. 若手研究者の表彰：若手研究者による研究のより一層の進展と活性化をはかることを目的として、優秀な研究発表を行った学生正会員に対し、「日本鉱物科学会研究発表優秀賞」（最大で4名）・・・

新設：E.研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン

（選考方法）

1. 年会での研究発表優秀賞の選考について、本会に「研究発表優秀賞選考委員会」を設ける。
2. 委員会は10名の委員で構成され、評議委員会において正会員、名誉会員、永年会員、シニア会員の中から選出し、会長がこれを委嘱する。ただし、委員のうち、2名以上は評議委員とする。
3. 委員の任期は2年とし、毎年その半数を交代する。再任は妨げない。
4. 委員長は原則として2期目の委員の中から会長が指名し、副委員長は原則として1期目の委員の中から委員長が指名する。
5. 委員会は、受賞に値する研究発表を選定し、選考結果を会長に報告する。
（海外渡航支援制度の内容）
6. 研究発表優秀賞を受賞した学生正会員に対し、海外の学会等で研究成果を発表する或は海外で調査・研究を行うことを支援するため、奨励金を与える。
7. 海外渡航支援を受ける期間は、受賞から1年以内とする。
8. 支給する額は、本会の旅費規程に基づく実費相当の額とし、一件あたり上限を5万円とする。
9. 本賞を受賞した発表論文の講演番号、講演題目および受賞者名を年会報告とともにGKKに掲載する。また、海外渡航支援を受けたものは帰国後に海外渡航支援の成果を報告することとする。

7. 「選挙内規」、「ガイドライン」改正案

（小暮会則・内規検討担当）

(1) 現行選挙内規13項の改正について

現行選挙内規13項によると、今回の9月17日で評議員を辞任予定だった評議員の欠員を補充するためには、来年度開始まで評議員が空席になることが判明した。これを解消するため以下の案が答申され、承認された。

現行⇒13. 評議員に欠員を生じた場合には、次年度の定例選挙に含めて補欠選挙を行う

改正案⇒13. 評議員に欠員を生じた場合には、直近の定例選挙の次点者より順次補欠当選者を定める

以下現行のまま。補欠当選者の決定は次の順位による。(a)まず定例選挙の当選者を定める。(b)次にその補欠数に応じて定例選挙における次点者より順次補欠当選者を定める。補欠当選者の任期は、前任者残りの期間とする。

- (2) ガイドラインの改正については原案通り答申され、承認された。

III. 審議事項

1. 平成26年度会計予算案について（中村会計幹事）

学会財政に関する審議の後、日本鉱物科学会平成26年度一般会計予算案を審議の結果、承認された。また、平成26年度特別会計予算案が提示され審議の結果、承認された。

- (1) 日本鉱物科学会平成26年度一般会計予算案（後頁表3）
- (2) 日本鉱物科学会平成26年度特別会計予算案（後頁表4）

2. 会員対応について（佐藤会員幹事）

- (1) 一般正会員入会申込書に会員紹介者氏名記入欄を設定する件について審議の結果、一般正会員入会申込書に会員紹介者氏名記入欄を設定のうえ、紹介者がいない入会希望者には、自己紹介を記入してもらうことが承認された。
- (2) 外国人留学生学生正会員の帰国後のサポートについて審議の結果、サービスを限定して会費を低価格とする発展途上国限定の海外会員をつくる検討を会員担当で開始することが承認された。
- (3) 会費未納者対応について審議の結果、将来企画委員会において、会員種別について議論するとともに、シニア会員を引き留める方を積極的に検討することが承認された。なお、現時点では、学会費自動引き落としを推奨することで会費納付率の向上を図り、そのため希望者の手数料を学会が負担することが承認された。

3. 法人化について（土山特務幹事）

I. 報告事項 11. 特務幹事(法人化対策担当)に関して、「法人化対策WG」で提案された案について審議の結果、承認され、今後は法人化を目指す方向で「法人化準備WG委員会」を作って検討を進めることが承認された。